

今甦る、歴史が彩る松前町 ～松前城築城400年祭～

道南の松前町では、4月30日の松前桜音頭パレードを皮切りに、松前城（福山城）築城400年祭を実施します。北海道に住む者も明治の開拓時代からの歴史は知っていても、道南の歴史が鎌倉時代から続いていると知っている人は意外に少ないのではないのでしょうか。

その歴史を受け継ぎ、まちづくりへ活かそうと、築城400年祭を実施する松前町総務課の担当者の方々に、築城400年祭の経緯、その意義、歴史を生かすまちづくりの将来への展望などについてうかがいました。

鎌倉からの歴史のまち

松前町は北海道の最南端に位置し、西は日本海、南は津軽海峡に面する人口1万1,000人の町です。海岸線は変化に富んだ景観を有し、渡島大島、松前小島とともに、松前・矢越道立自然公園に指定されています。気候は、

対馬海流の影響を受けて、北海道の中では温暖で寒暖差も少なく、積雪量も少ないなど、大変恵まれた環境にあります。また、250種1万本に及ぶ桜は、松前城とともに松前を語る代名詞となっています。

この松前は、鎌倉時代へ遡る歴史を持っています。14～15世紀の道南地方には、津軽の十三湊（とさみなと）を拠点とした安藤（安東）氏によって12の館（砦）が作られ、配下の豪族が割拠、その後、1456年のコシヤマインの戦いに始まり100年近く続いた戦乱で、道南の覇者となっていったのが、武田（蠣崎）信廣を祖とする松前氏です。

松前城築城400年祭

その松前町が今年、1606年（慶長11年）に福山館が完成してから400年目ということで、「松前城築城400年祭」を実施します。

松前町は、400年祭の意義と取り組みの決意を次のように示しています。

松前城400年の歴史は、単に城ができてから400年が経過したということではなく、北海道のまちづくりという視点において、初めて“北の大地にしっかりと意思を持って生きていくことの決意宣言がされた日”からの歴史。松前城築城400年祭は、この北海道に生きる私たちが、先人の英知と勇気と決断におおきな賞賛を送るとともに、いまあらためて自主自律のまちづくりに取り組む決意を固め、それを声高らかに宣言しようとする

1457(長禄元)	松前藩祖武田信廣、上ノ国花沢館主蠣崎季繁の嗣子となる
1514(永正11)	2世光廣上ノ国より松前大館へ移り、徳山館と名付ける
1599(文禄2)	蠣崎慶廣、肥前名護屋に豊臣秀吉を訪ね、朱印の制書を受け、蝦夷島主となる
1599(慶長4)	慶廣、大坂で徳川家康に謁見する。蠣崎姓から松前姓へ改める
1600(慶長5)～	松前慶廣、福山台地に新城(福山館)築城に着手
1604(慶長9)	慶廣、家康に謁見し、黒印の制書を受ける
1606(慶長11)	福山館完成
1619(元和5)～	寺町を現在地に移転
1807(文化4)～	福島県梁川に移封(1821年復領)
1849(嘉永2)～	17世崇廣、津軽海峡警備強化のため幕府より築城を命ぜられる
1854(安政元)	松前城完成。最北に位置する最後の日本式城郭
1868(明治元)	旧幕府軍松前城を占領。翌年官軍が奪回
1875(明治8)～	三層楼、本丸御門、東堀、本丸御殿の一部を除き取り壊し
1941(昭和16)	松前城が国宝に指定
1949(昭和24)	火災のため天守閣を焼失
1961(昭和36)	松前城再建落成式を挙(1959年着工)
2006(平成18)	松前城築城400年祭

祭なのです。

先人は松前城を中心とし、酷寒の地であって厳しさに耐え、産業を起し生活文化を綿々と築いてきた。今、この大地に生きる私たちにとっては、この大地でかん難辛苦を耐えてこられた先人に感謝と畏敬の念を抱くと共に、その足跡を見つめ直し、今こそ「古に博く今を知る」を重く受け止め、歴史から何を学ぶかを問い続けることが大切である。町民の生活文化の向上と松前町の発展を期する飛躍の年として位置づけをし、次のとおり取り組んでいくことを決意するものである。

一、協働のまちづくり

地域に熱い愛情と誇りを持って、みんなで力を合わせ協働の理念のもと、取り組むものとする。

一、個性をいかしたまちづくり

歴史、産業、生活文化など、地域資源の活用のもと、取り組むものとする。

一、未来へ続くまちづくり

次世代を担う子供たちの、夢と希望が広がるよう、取り組むものとする。

「400年祭の企画は、実行委員会が昨年からの産業部会、地域部会、文化・スポーツ部会からなる推進体制を組み、住民からの直接の声も取りいれて行っています。協働の理念は、町民と行政が一体となってまちづくりに取り組もうとするものでありますが、今回の400年祭では、このような催し・活動をとおして、町民に徐々に協働の意識が浸透していくのではないのでしょうか」と、松前町総務課政策推進担当の松橋祐二参事、宮島武司主幹は期待



を込めています。

歴史を活かす街並み整備

松前町は、1993年（平成5年）6月、北海道新長期総合計画の戦略プロジェクト“歴史を生かすまちづくり”に基づいて、「歴史を生かす街並み整備モデル地区」に指定されました。

「この事業に松前町が選ばれたことの意味は、道内で最も古く文化的歴史的資源を持つ松前町が先導的役割を果たすことでした。このため、モデル地区の具体的な計画づくりには町民参加の『松前町歴史を生かすまちづくり推進協議会』を設置して検討、まとめられたガイドプランにより、事業が実施されています」と、まちなみ推進グループの成田隆治主幹、堀川昭彦主任は話します。

- 1 高台公園ゾーン（完成済）
 - 藩屋敷、カントリーパーク
 - 八十八ヶ所遊歩道整備
- 2 文化財保存ゾーン（実施中）
 - 史跡福山城保存整備事業（城郭復元）
- 3 本町中央部商店街ゾーン
 - ヒストリーオアシス整備事業
 - 道道改良整備事業（18年度完了）
 - 街並み環境整備事業
 - ・沖口広場整備（沖口役所跡地の整備）
 - ・ふれあい交流センター
 - ・セットバック整備
 - ・通路整備
 - その他
 - ・「歴まち商店街組合」の設立と取組
 - ・北電柱等の背後移動（町中の無電線化）
 - ・建物修景事業（建物、看板等近代的和風統一）
- 4 海岸ゾーン
 - 唐津駐車場の整備（北海道開発局）
 - ・駐車場と本町中央部へのアクセス通路の整備

400年祭スケジュール

松前桜音頭パレード	4月30日(日)	松前公園ほか
金子鷗亭生誕百周年記念特別展	5月6日(土)～14日(日)	松前町町民総合センター(松前町神明)
次世代交流事業(記念人文字)	5月12日(金)	松前公園
松前城築城400年祭 記念式典	5月13日(土)	松前城観涛台
北海道奴振り大会	5月13日(土)	松前町市街地(松前町唐津～松城)
松前城下市(産業まつり)	5月13日(土)～14日(日)	
松前町築城400年祭記念講話	5月14日(日)	松前町町民総合センター(松前町神明)
町の木・町の花植樹祭	5月21日(日)	松前町茂草・静浦・札前地区
町民綱引き大会	6月中旬予定	
築城400年記念コンサート	10月14日(土)	パートナーシップランド「いさりび」(松前町江良)

モデル地区を歩いてみた。高台の藩屋敷から松前家墓所、坂を下って法源寺や松前神社などの寺社群、そして史跡福山城保存地区(松前城)に至る。松前城へ登るいくつかの道は工事中であったが、その一つを下るとヒストリーオアシスへ着いた。道道松前港線沿いの瓦屋根の建物にトイレが設置されている。松前港線(450m区間)は松前本町の中心市街地を通過している。歴町づくりで歩道舗装、照明、橋の高欄が歴史的雰囲気を感じさせるものに変貌している。通りを歩くと武家屋敷風街並みが形成されつつあり、屋根や建物、看板暖簾などが昔風である。よく見ると、商店街で電気器具屋、歯医者、そば屋、郵便局、薬屋さんが並んでいる。全くの生活必需品販売業が主であり、実際に機能しているのだが、観光の通路にもなっている。この通りには沖口広場(沖口役所跡地)も整備され、ふれあい交流センターに通じ、嵩上げされた唐津駐車場にもつながっている。

「このまちなみ整備事業は平成18年度までが1期で、完成には2期、3期と長い時間をかけて続けていくことが必要です。住民との一種の協働作業であるため、“歴まち商店街組合”の設立と取り組みが不可欠でした。松



前歴まち商店街組合は'96年1月に設立され、モデル地区の基本構想の検討に参加し、独自の「まちづくり協定書」を作成しました。この協定は昔風街並みを演出する修景を主として協定したものであり、組合メンバーの真摯な話し合いにより現在進みつつある城下町風景観がつくられています。また、本町中央部は道路事業を併用しているため、用地確保の協議や協力にも積極的に対応し、成果を現しています。まだ、未完成の部分が残されており、基本構想の趣旨を踏まえると今後も継続する必要がありますが、組合は2、3期も頑張っていく意気込みです」と成田さん、堀川さんはその協働の必要性を強調しました。

マグロの海への展望

松前町の今後の展望をお聞きすると、「松前はやはり漁業が主要産業」と皆さんが口をそろえていいます。

道南一体はその昔、鯨が綿栽培の金肥として流通し、栄えた土地柄ですが、今もやはり漁業だそうです。イカ・スルメ、松前漬けが特産ですが、最近注目されるのはマグロ漁です。

「昔からマグロ漁は知られていますが、道南のマグロは冷凍技術と流通の未熟さから、全国的(築地市場)付加価値を生まずに知られていませんでした。しかし、最近は高い評価を得られてきています。もっと安価な冷凍技術と流通技術を手に入れ、松前マグロをブランド化したい」と宮島主幹は、松前町の産業の展望を語ってくれました。

“歴史を生かしたまちづくり”事業を契機とした住民との協働作業が今後も永続し、住民が生き生きと生活し、訪れる人々にとって魅力ある北海道唯一の城下町「松前町」として、大きく飛躍していくことを期待したい。

<http://www.e-matsumae.com/400nen/matsumaejo400.htm>